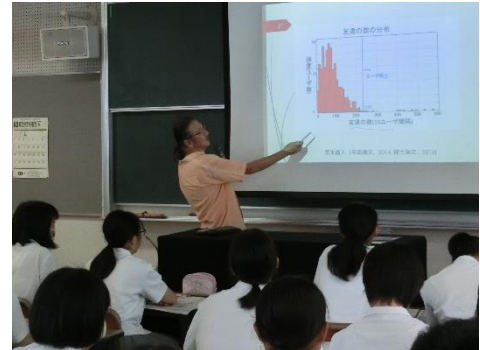




「リサーチセミナー」を開催しました

9月15日（土）に、理数科1年生を対象に、第3回「リサーチセミナー」を実施しました。佐賀大学理工学部知能情報システム学科 只木進一先生に、「コンピュータで現象を捉える」と題して、現象を数学の言葉で捉えることの意味や、Twitterによる人と人のつながりを分析した修士論文研究、高速道路における流量逆転に関する修士論文研究の事例等を話していただきました。



生徒の感想

- 「ツイッターや高速道路の走行車線、追い越し車線の関係などテーマ設定は身近なところからできると改めて分かった。」
- 「数学の言葉でとらえることで願望などの感情が排除されるということにはとても納得がきました。」
- 「数値が大切ではなく、変化が大切だという時もあると知りました。」
- 「定性的・定量的という性質を知り、実際に課題研究を行う際には頭において研究しようと思いました。」
- 「高速道路の流量逆転に関する研究では余計な要素を除き、モデル化することで流量逆転の原因などを導き出していたのがすごいなと思いました。」
- 「実験をするときは定量で確実な結果を得ようとするときと大まかな結果が分かればいい時があると知りました。」

「プログラミング学習」が始まります

理数科2年生は、学校設定科目「SSH情報」で、9月から11月にかけて、「プログラミング学習」に取り組みます。この学習活動では、PDCAサイクルによる課題発見・解決の経験を重ね、課題発見・解決に関わる資質・能力を身に付けるとともに、プログラミングに対する関心を高め、スキルを身に付け、課題研究に活用することを目的としています。

9月20日（木）に、九州工業大学教養教育院長 西野和典先生に、「問題解決の方法と手順」と題して、問題解決における問題の定義や問題解決の手順としてのPDCAサイクルなど、具体的な例を交えて講義いただきました。



生徒の感想

- 「自分にとっての問題とは、ゴールまでの障壁みたいなものとイメージしていたけど、現状と目標までのギャップが問題であると知りました。」
- 「問題解決には、明確な目的が必要であり、条件も整理することが大切であることが分かった。自分は目標を立てても、抽象的なことばかりで明確に書いていなかった。これからは、6W1H1D『いつ、どこで、誰が、誰に、何を目的に、何を、どのように、どうする』を用いて、具体的に書こうと思う。」
- 「『情報を表やグラフで整理』については、SSH研究Ⅱの授業でもよく言われることで、文章だけよりも分かりやすくなり、人にも伝わりやすくなると思うので、今後も活用していこうと思います。」
- 「PDCAサイクルについて改めて深く知ることができました。私の場合、PDCまでは言ってもA（改善）することをよく忘れてしまっているので、サイクルを徹底させていきたいと思っています。」
- 「課題研究では、目の前のことに集中しすぎて目的を見失ってしまうということがありますが、だから、私達は、何を求めてこの実験を行っているのか、この実験によって分かることは何かを確認するようにしています。今日の講演でも、一歩下がって自分のすることを客観的に見つめるということが大切だと再確認できました。」